

シン・研修報告書 富山県医療ソーシャルワーカー協会

令和5年度第2回定例研修会

令和6年3月24日(日)

「ソーシャルワーカーとして
大規模災害にどう向き合うか」
～能登半島地震の経験を元に考えよう～



講師
南砺市地域包括支援センター 竹内 嘉伸 氏
富山市立富山市民病院 八木 智矢 氏

研修会の感想

富山県済生会富山病院 角谷 良治さん

元日の地震で、職場等において、地震による影響、混乱を体験し、そのような中で、ソーシャルワーカーの役割や「**何ができるか**」を認識する必要があると強く感じ、研修会に参加する動機になりました。

災害時の活動スキームをご報告頂き、行政間でどのようなやりとりが行われたか、それぞれの協会がどのような役割を担ったか把握することができました。また、実際に富山DWATとして活動された報告の際、印象的だった事として、避難所によっては、深刻な被災状況も想定され、被災者の心情を理解して、寄り添うことの大切を知ることができました。

研修会に参加し、有事の際に何が必要かを想定し、**ソーシャルワーカーとして出来ることを創造していくことの必要性を感じました。**貴重な活動報告を行って頂きありがとうございました。

広報事業部の
一言つぶやき

私たち広報委員も本研修に参加していました。日常を早く取り戻せる仕組み作りをしていかなければならないという竹内会長の言葉がずっと記憶に残っています。

また、他に被災地支援に行った方からは「被災地支援では記録、報告、申し送りがとても重要でした。これは我々の日常業務でも同じことをしていますが、慣れてしまいおろそかになっているなと思いました。」と言われました。被災地支援と言うと被災地という非日常の場面で支援を展開しますが、実践していることは普段の視点や支援方法と変わらないのだなと気づきました。講師のお二人には貴重な時間をいただきました。ありがとうございました。

研修会の様子

